

Global Energy Policy Research

GEPR (グローバル・エネルギー・ポリシー・リサーチ) は、日本と世界のエネルギー政策を深く公平に研究し、社会に提言するウェブ上の「仮想シンクタンク」です。この機関は、アゴラ研究所 (<http://agorajp.com/>、東京) が運営し、エネルギー問題についての研究と調査、インターネットでの情報提供、シンポジウムの開催、提言の作成、書籍の出版を行います。

2030年SDGsは必ず未達に終わる

藤枝 一也・Thursday, September 16th, 2021

SDGsの前身は2000年に国連で採択されたMDGs (Millennium Development Goals、ミレニアム開発目標)

です。2015年を最終年とし、貧困や乳児死亡率の削減、環境問題など8分類21項目を掲げた世界目標でした。当時、筆者も必死にMDGsを勉強して自社で貢献できることを考えていました。このMDGsが未達に終わったことを受けて、ポストMDGsとして今をときめくSDGsが誕生したのです。今度は17分類169項目もあります。読むだけで大変な分量です。



metamorworks/iStock

さて、SDGsの目標達成年である2030年の未来を想像してみます。SDGsは必ず未達に終わります (ここだけは想像ではなく、断言します)。すると2031年以降に「ポストSDGs」が生まれるはずですが、企業のサステナビリティ担当者や学生は、また勉強し直さなければなりません。企業では、自社の活動とSDGs17分類との関連付け (SDGsタグ付け) もポ

ストSDGsタグ付けとしてやり直しです。ポストSDGsコンサルタント（元CSRコンサルタント、元SDGsコンサルタント、元ESGコンサルタント）たちは「新たな世界目標ができました！」「日本企業は遅れています！」「バスに乗り遅れるな！」と言って企業を煽っている姿が目には浮かびます。

ポストSDGsの目標は果たして何項目になっているのでしょうか。200項目？300項目？分量が多いほど、内容が難解なほど、そしてクライアントに成果や付加価値が現れないほど、ポストSDGsコンサルタントは儲かり、サステナブルなビジネスになります。さらにその先の未来である2045年、もしくは2050年にポストSDGsの最終年を迎え、また未達に終わります（ここだけは想像ではなく、断言します）。するとその翌年には「ポストポストSDGs」が現れ、ポストポストSDGsコンサルタントはまた日本企業に対して……以下略。

6年以上CSR・サステナビリティ部門に携わっている方であれば、この「MDGs（未達）SDGs」の流れはよくご存じだと思います。他にも、「京都議定書（未達）パリ協定」は有名です。「生物多様性2010年目標（未達）愛知目標（未達）ポスト愛知目標（2021年現在議論中）」をご存知の方は生物多様性の分野について詳しい方ですね。「環境報告書 CSR報告書 統合報告書、サステナビリティ報告書」は情報開示の変遷です。では「SRIとESG投資」「環境会計と自然資本会計」「SDGsとESDとESG」「A4SとGRIとIIRCとSASBとTCFD」の違いや関係を説明できる人が果たして何人いるのでしょうか（略語の説明は省略します。詳しくはSDGsコンサルにお問い合わせください）。

事程左様に、企業に対する環境・CSR分野の要求は手を変え品を変え目先を変えることが繰り返されてきました。企業自身が取り組んでよかった、付加価値があったと振り返れるものがいくつあったのでしょうか。歴史は繰り返します。欧米出羽守やコンサルタント発の喧騒に対して右顧左眄のCSR・サステナビリティ経営はそろそろ止める時期です。

『SDGsの不都合な真実 - 「脱炭素」が世界を救うの大嘘 - 』（宝島社）

This entry was posted on Thursday, September 16th, 2021 at 7:00 am and is filed under [コラム, ビジネス](#)

You can follow any responses to this entry through the [Comments \(RSS\)](#) feed. Both comments and pings are currently closed.